

---

# とある空我の平行世界（パラレルワールド）

カッシー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある空我の平行世界 パラレルワールド

### 【Nコード】

N7530V

### 【作者名】

カッシー

### 【あらすじ】

学園都市。そこに一人の少年がいたその名は五代俊。上条当麻と同じクラスであり、仲が良い。だがその主人公はクウガに変身できる人物でもあった。

とある魔術の禁書目録と仮面ライダークウガのクロスオーバーです。駄文ですがよろしく願います！

**A N e w H e r o ・ A N e w L e g e n d (前書き)**

是非とも感想などよろしくお願いします！

## A New Hero · A New Legend

最初から自己紹介と行こうか

俺の名前は五代俊

好きな奴は優しい奴やバカ正直な奴

嫌いな奴は暴力をして人から金を奪ったりする奴。まあ不良だな

さあ今日は俺達学生が待ちに待っていた夏休み前日なのだが……

「別にいいじゃないですか」

こんな事をいきなり言うのは変だと思う。だが状況が状況だ。どんな状況かと言うと……

「ああ！聞いてんのかテメエ！」

「無視してんじゃねーよ！」

不良に絡まれてます。はい。

事の発端はこうだ

不良に肩がぶつかり謝れやコラ！と言われたのを無視して歩いていると前方にさっきの不良の仲間が近づいてきた。最初は絡まれる奴は災難だな。と、思ったのだが。俺が災難を受ける人間だとはな。

てな訳で現在絡まれています。

道を歩く人達はみんな俺を見てみぬ振りをしている。

別に彼らが薄情者だとは思わない

誰でも自分が可愛いし

ここに突っ込んでくる奴は障害者がバカだな。そんな奴が今、この時通りかかる筈が……

「すみませーん通してください。ほら探したぞ」

あるらしい。その来たバカな少年は俺の手を握ってさあ帰ろうぜ。と言ってきた

「ああ！舐めとんのかお前！」

「ふざけてるとただじゃ済まされねえぞ！」

「言いたい事あんならちゃんと見えや！」

しかし現実はその上手く行かない。不良共が俺達の前に集まってくる

「ったくしょうがねーな！言いたい事？あああるよ！大体お前等こいつ見ててどう思う？何処から見てもちよつと身長が高いだけの平々凡々な奴じゃねえか！」

こいつ俺の事思いつ切りバカにしてねえか？

「しかも相手は一人！どう思う？一人に対してそんな集団で囲むのは。情けなくねえ……ってあれ？」

その少年が熱弁を辞めたのは俺がある行為をしたからだ。その行為とは……

「てめえら。もう俺はイラつく限度を越えた。こいつのようになりたくなければさっさと退散しやがれ」

そう殴ったからだ。顔を思いつ切り。その瞬間不良共は

「やべえぞこいつ……能力者なのか？しかしこの状況はヤバイお前から逃げるぞ！」

リーダーシップをとっていると思われる人がそう言うと一目散に逃げ出す不良

「はあ……何やってんだ上条？」

「いや、ねえ？人助けかな？」

「むしろマイナスになってるような気がするんだが」

現にこいつが現れたせいで俺のイラつきが限度を越え、一人怪我を負ってしまった

「というか上条。俺の事平々凡々とか言ってたよな？これについて上条君と拳で語り合いたいんだが？」

拳の準備をする

「いや、五代さん?!私、上条当麻は口喧嘩はともかく、ホントの喧嘩は余り強くないし何より平和を愛する少年でありまして私は五代さんとは余り喧嘩をしたくはないのです!平和を愛する少年は誰かが武装集団スキルアウトに絡まれている少年を守るのは私達の仕事なので「意味が分かん!」「うっ!」

五代のパンチは上条の頬にクリティカルヒットした

\*\*\*

上条当麻

不思議なバカ少年だ。不良に絡まれている人を見つけるとすぐさま駆け寄り手を伸ばす。

いまでは稀に見えないタイプの少年は現在……

痛そうに頬をさすっていた

「あんなに本気でやる事はないと上条さんは思いますが」

「お前が変な事言い出したのが悪い」

「いや、五代先に拳を握りしめてたじゃねえか！」

泣きそうな顔で言っても迫力がない上条

「ちくしょう！なんで俺はこんなに不幸なんだ！この前のビリビリ  
女も勝負挑んでくるし……！俺って……恵まれない子供なのかな……  
……」

そんな上条を暖かい目で見守る。上条は生まれつきの不幸体質で、  
空き缶で転び、階段から転がり……とまあ不幸な人間なのである。  
今までこんな不幸なやつは初めて見た。ある意味感心だな

だがそんな上条でも能力があるのだが……それは今後はなそう

「まあまあ。そんな日もあるさ。俺なんていつでも金欠だ」

「それは上条さんも同じ事ですよ」

うーむ、どうやればこんな上条をなくさめる事ができるのか……そ  
う考えた時

ブウウウウン



「くっ！」

「どうした五代？」

突然頭の中で鳴り響く警戒音

「ちよいと用事ができた。また今度な」

「どうしたんだ？」

その上条の疑問も聞かずダッシュする

「行ってしまった……今日は夏休み前日だし五代と飯食おうかなー  
とっていたのに……まあいいか一人で行こ」

その行ったファミレス先でまたまた不良に絡まれている女子を助け  
ようとする事など不幸な上条は知らない

路地裏で一人の女子中学生がこちら辺に怪物が出るという都市伝説を信じてやって来た

上から音がする。ちょっとビビりながら上をみると……

「きゃああああああああ……！」

でかい蜘蛛の巣を作っている怪物と出会ってしまった。すぐさまその怪物も気づき下に飛び降りる

「死ね……！」

「う……うわ……！」

怖くて声も出せない。そんな時

「ハアッ！」

少年——五代俊はその怪物に不意打ちキックを喰らわせた。後ろに少し吹っ飛ぶ怪物

「死にたくないならさっさと逃げろ！」

「は……はい！」

少女は駆け出す。それを数秒見た後大丈夫だと思った五代はすぐさま怪物の方を向き

「ったく。不良の次はグロンギですか？」

グロンギーー怪物の総称だ

「俺の父さんから聞いた所によるとお前らはなんとかの闇とか言う奴が死んだからもう終わったんじゃないのか？」

「新たなる……支配者」

「新たなる支配者？なんだそりゃ」

「貴様に教える義務はない！」

そう言うつと蜘蛛の怪物は糸を吐き出す

「危ねえ！」

間一髪よけてすぐさま両手を腰に添えるするとベルトーアーケルが出現する。右手を左前に、左手をベルトの右側に移動させる。そして右手を右前に、左手を左側にスライドさせて

「「「変身！……！」」」

そう叫んだ後、右手を左手の上に乗せて左側のベルトをおした。そして両手を広げる！

すると五代の身体はどんどんクワガタに似た赤い何かに変身してい

く。最後に目が赤く光った

「仮面ライダークウガ」

「クウガ……！」

「ご名答！」

駆け出してまず右手でパンチしてきたグロンギをよけて左手で腹を殴る。腹を抱えたグロンギを蹴り飛ばす

「楽勝だな」

そう言うのと右足を前にだして左手を後ろにする

ダッシュ！

そのままジャンプして立ち上がるうとしたグロンギに渾身のキックが決まる！

マイティキック

それがこのキックの名前だ。蹴られた場所にクウガのマークが浮かび上がりそれがグロンギのベルトまで来る。そしてそのベルトが割れて……

「うわああ……！」

叫びながら爆発した

「ふう……」

クウガから元の五代に戻って爆発した場所を見る

「……最近多いなあ」

「グロンギ」

それは元々古代の戦士。そして2000の技を持つ戦士によっていなくなった筈だった。だが最近増えているのだ。グロンギが

「ったく。面倒くさいなあ」

欠伸をかきながらその場を後にすると

ピカッ！

空から雷が落ちる

「また、グロンギか？」

しかし、当時のルールを守るとすれば一度に二人は殺しを行う事が出来ない。それが昔のルールであれば、だが

そのルールを守ってるんだなど、判断した五代は能力者同士の争いだと思っただので、そこに行くような事はせず、ただ帰路を急いだ

その電撃を放ったのはレベル5の第三位で、相手になっているのはレベル0の上条当麻だと知らずに



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7530v/>

---

とある空我の平行世界（パラレルワールド）

2011年10月9日07時29分発行